

令和 5 年度（2023） 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：乗鞍岳におけるミュオン強度の精密観測 英文：Space weather observation using muon hodoscope at Mt. Norikura
研究代表者	加藤 千尋(信州大学)
参加研究者	宗像 一起(信州大学) 小山 守一(信州大学) 宮下 直子(信州大学) 林 優希(信州大学) 増田 吉起(信州大学) 松本 瑞生(信州大学)
研究成果概要	<p>上山時に前期の問題となっていた遠隔でのスイッチ操作機器を交換して観測を再開した。観測所閉鎖後に1度天候悪化による観測停止がみられたが、交換したスイッチを用いた遠隔操作により観測を再開することができた。11月に入り冬季の荒天によって観測が停止した。今季は天候が安定せず春季まで観測再開の目処が立っていない。</p> <p>他方、南極昭和基地での宇宙線連続観測は順調に継続しており、稼働率は90%を超えている。他のミュオン観測所と合わせて観測データの公開も進んでいるが、利用率向上のために公開方法の改善を検討しているところである。</p> <p>本年度の予算は乗鞍上山の旅費として 16 千円を使用した。</p>
整理番号	D01